

想定される交通事故の例

【情報提供のみを行う場合（AHS-i に相当）】

● センサーの誤検出

（前方停止車両・低速車両情報提供支援サービスの場合）

急カーブ先の視野外に停止車両・低速車両なし。しかし、樹木の影が風で動いたものをセンサーが低速車両ありと誤検出。AHS 車ドライバーは、車載器からカーブ先に停止車両ありと情報提供を受け、急ブレーキを踏む。後続走行していた非 AHS 車が AHS 車に衝突。

● センサーの未検出

（前方停止車両・低速車両情報提供支援サービスの場合）

急カーブ先の視野外に停止車両あり。しかし、薄暮／夜間等照度が不足する環境下でセンサーが停止車両を検出できない。AHS 車ドライバーは、車載器から情報提供がないため、急カーブ先には停止車両・低速車両はないと考え、スピードを落とすことなくカーブに進入。カーブ走行中に停止車両を発見し、急ブレーキをかけるが間に合わず、停止車両に衝突。

● 車載器の故障

（路面情報提供支援サービスの場合）

トンネル出口先の路面が凍結。インフラシステムから AHS 車両に同情報を発信。しかし、車載器が故障しており、AHS 車載器からドライバーに情報提供されない。AHS 車ドライバーはトンネル出口先の路面は凍結していないと考え、スピードを落とすことなく走行、トンネル出口先でスリップし、側壁に衝突。

● 電波の遮断

（路面情報提供支援サービスの場合）

トンネル出口先の路面が凍結。インフラシステムから AHS 車両に同情報を発信。しかし、併走していた大型車両により電波が遮断され、AHS 車両に伝わらない。AHS 車ドライバーは、車載器から情報提供がないため、トンネル出口先の路面は凍結していないと考え、スピードを落とすことなく走行、トンネル出口先でスリップし、対向車両に衝突。

- **HMI の問題**

(カーブ進入危険防止支援サービスの場合)

走行支援システムの情報提供タイミングは、大多数のドライバーの理解速度、反応速度に合わせて設定されているが、事故を起こした AHS 車ドライバーは理解・反応しきれず、カーブを逸脱し併走車両に衝突。

- **サービス内容の誤解**

(前方停止車両・低速車両情報提供支援サービスの場合)

AHS 車ドライバーは、停止車両、低速車両だけでなく、その他の障害物も情報提供してくれるサービスと誤解している。急カーブ先の視野外に障害物（例えば、トラックの荷台から落ちた積載物、斜面から落ちてきた岩石、など）が発生。AHS 車ドライバーは、車載器から情報提供がないため、急カーブ先には危険が全くないと考え、スピードを落とすことなくカーブに進入。カーブ走行中に障害物を発見し、障害物を避けようとして車線変更、併走車両と衝突。

- **情報を認知せず**

(カーブ進入危険防止支援サービスの場合)

AHS 車ドライバーは、車載器の音声モードをオフにしてサービス区間に進入。車載器に「前方カーブ、スピード落とせ」と画面表示されるが、AHS 車ドライバーは同乗者と話し込んでいて、気がつかない。AHS 車はカーブを逸脱し、対向車両と衝突。

- **第三者が誤情報を発信**

(路面情報提供支援サービスの場合)

第3者がいたずら目的で、AHS 車両に「〇〇m 先の路面が凍結」という誤情報を発信。AHS 車ドライバーは、車載器からの情報提供を受け、急いでスピードを落とすべく急ブレーキを踏む。後続走行していた非 AHS 車が AHS 車に衝突。

【操作支援まで行う場合（AHS-c に相当）】

- センサーの誤検出

（前方停止車両・低速車両情報提供支援サービスの場合）

急カーブ先の視野外に停止車両・低速車両なし。しかし、樹木の影が風で動いたものをセンサーが低速車両ありと誤検出。インフラシステムからの誤情報をもとに、AHS 車両システムが減速開始。後続走行していた非 AHS 車が AHS 車に衝突。

- センサーの未検出

（前方停止車両・低速車両情報提供支援サービスの場合）

急カーブ先の視野外に停止車両あり。しかし、薄暮／夜間等照度が不足する環境下でセンサーが停止車両を検出できない。AHS 車ドライバーは、急カーブ先に停止車両・低速車両がある場合は、AHS システムが衝突しないように減速してくれると信頼しており、スピードを落とすことなくカーブに進入。カーブ走行中に停止車両を発見し、急ブレーキをかけるが間に合わず、停止車両に衝突。

- 車の制御システムの故障

（路面情報提供支援サービスの場合）

トンネル出口先の路面が凍結。インフラシステムから AHS 車両に同情報を発信。しかし、車両の自動制御システムが故障しており減速されない。AHS 車ドライバーは、路面が凍結していれば、AHS システムがスリップしない程度に減速してくれると信頼しており、スピードを落とすことなく走行。トンネル出口先でスリップし、併走車両と衝突。

- 不慣れから来る誤操作

（前方停止車両・低速車両情報提供支援サービスの場合）

AHS システムが搭載された車両を友人から借りるが、AHS システムについては全く理解していない。急カーブ先の視野外に停止車両が発生。インフラシステムからの発信情報をもとに、AHS 車両システムが減速開始。AHS 車ドライバーはシステムによる減速に驚き、気が動転して、ハンドル操作を誤り、側壁に衝突。